

漢法苞徳塾資料	No. 083
区分	医古文・資料（東鍼校）
タイトル	喉・咽・噎について 中国医学大辞典（商務印書館・武進謝）より
著者	八木素萌
作成日	1996.07

噎 音=イツ

1. 喉下之食管
2. 噎乾……食管口之乾涸也・為厥陰脈之状。見「素問・診要經終論第 16」
3. 噎絡……食管口之脈絡也
3. 噎痛……喉噎食管口作痛也「素問・繆刺論第 63 に邪客於足少陰之絡・令人噎痛・不可内食」
4. 噎塞……食管上口隔塞不通也「素問・六元正紀大論第 71 に民病噎塞」

喉 音=コウ

1. 頤項内通声息水穀之道・在舌本之下・食管・気管之上・係軟骨所成・各有筋肉連之・喉大則声大・喉小則声小。
2. 喉風……喉内紅腫或連及項外者。有纏喉風・啞喉風・鎖喉風・緊喉風・慢喉風・勞碌喉風・酒寒喉風・腫爛喉風・肺寒喉風・酒毒喉風・白喉風・紫色喉風・虚爛喉風・匝舌喉風・啞瘴喉風・陰虚喉風・弄舌喉風・嗆食喉風・脚根喉風之別。  
註～喉風には既に確定したと言える鍼法あり。
3. 喉痺……喉中閉塞不通也・「(素問至真要大論第 74) 少陽司天・客勝則喉痺（又）歲太陰在泉・湿淫所勝・民病喉痺（又）太陰之勝・火氣内鬱・甚則熱格喉痺（陰陽別論第 7) 一陰一陽結・謂之喉痺（厥論第 45) 手陽明少陽厥逆・癆喉痺噎腫瘞・治主病（靈樞熱病第 23) 喉痺取手小指次指爪甲下・去端如韭葉（雜病第 26) 喉痺不能言・取足陽明・能言取手陽明・按・此證由肝肺火盛・復感風寒・熱毒陷於厥陰之分而成・無論傷寒温病熱病天行大頭及雜證湿痰鬱火等・而為陰火亢害則一・多見咽喉腫痛・面赤腮腫・甚則項外漫腫・喉中有塊如拳・湯水難嚥・語言不出。…」

咽 音=イン

1. 因也・為食管上端通胃之道・飲食必因於口・至喉則嚥使入胃・故名

會厭 音=エエン

1. 气管上竅之蓋也・其質似皮似膜・発声則開・嚥食則閉・為声音之門戸  
(靈樞・憂恚無言第 69) 會厭者音声之戸也 (又) 會厭の脈・上絡任脈。  
(難經四十四難) 會厭為吸門。

喉嚨 音=コウロウ

1. 肺之上管也  
(靈樞・憂恚無言第 69) 喉嚨者・氣之所以上下者也。  
(難經四十二難) 喉嚨重 1 2 兩・広 2 寸・長 1 尺 2 寸・9 節。  
按・喉嚨即喉腔最大處・在懸雍垂與舌本之後。

- ① 會厭
- ② 咽
- ③ 喉嚨
- ④ 喉
- ⑤ 脰

